

議会だより

かみやま

第10号

2011.8.15

6月定例会

上分花の隠里

上分花の隠里 5月5日(子供の日)

発行/神山町議会 [〒771-3395 徳島県名西郡神山町神領字本野間100 TEL.088-676-1511(IP2002) FAX.088-676-1100]

神山町議会 6月定例会



6月定例会は、6月14日から21日まで8日間の会期で開催しました。
提出議案は、補正予算、条例の一部改正、工事変更請負契約の締結の専決8件、補正予算5件、条例の一部改正2件、人事案件2件、計17議案を審議し、いずれも原案どおり可決、承認同意しました。
議会からは、名西消防組合議会議員の選挙に関する件、意見書を提案しすべて選任同意された。
一般質問では、2議員が登壇し（5ページから掲載）それぞれの町の考えを質問しました。

22年度補正予算 専決

専決補正予算は、一般会計予算と、3特別会計補正予算が提案され、一般会計予算は、主に基金積立金で、3特別会計補正予算は、減額補正となっております。

一般会計	46億8,600万円(1億6,617万円)
国民健康保険特別会計	10億4,713万円()0円
簡易水道事業特別会計	1億3,999万円(▲248万円)
老人保健特別会計	84万円(▲93万円)

(▲は減額を表す)

6月 補正予算

一般会計補正予算ならびに、4特別会計予算が提案され、総額で2億7,967万円が追加されました。

一般会計は、主に財政調整基金積立金、農作物被害対策施設整備補助金等で、国民健康保険特別会計では、保険者の療養給付費補正となっております。

一般会計	37億7,196万円(1億3,996万円)
国民健康保険特別会計	11億4,027万円(1億3,207万円)
簡易水道事業特別会計	1億2,471万円()681万円
介護保険特別会計	8億4,424万円()62万円
後期高齢者医療特別会計	1億0,915万円()21万円

(左は予算総額、()内は6月補正額)

主な内容

◎財政調整基金積立金	1億1,671万円
◎農作物被害対策施設整備補助金	250万円
◎県単急傾斜他崩壊対策工事	328万円
◎保険者療養給付費	1億1,232万円

所信表明

■ 町長から所信の表明と諸般の報告があった。その概要については、次のとおりです。

■ 町長選挙で3期目当選をさせて頂きました。今後は子どもたち、あるいはお年寄りも元気で、人々が行き交う美しい町づくりの為、邁進する覚悟でございます。

■ 3期目の公約について、まず、神山町の地域防災計画を見直させて頂き、特に自主防災組織を神山町くまなく立ち上げさせて頂きたい。避難所となる公共施設の耐震化も、出来るだけ早く、これを実行したい。また、高齢者が安心して暮らせるネットワークづくりの強化についても取り組ませて頂きたい。それから、農業、林業あるいは観光等の産業振興についても力を入れて参りたいと考えておるところであります。そして、鳥獣害の被害対策の強化についても、猟友会とのタイアップの強化はもちろん、佐那河内村、あるいは広域対応、それから現在ある補助制度を更に充実強化いたして参りたいと考えているところであり、まして水質源の確保については、昨今、非常に異常気象時の中

ら、水質源の枯渇ということが非常に重大な問題となっておりますので、この点についても力を入れて参りたい。また、何よりも若者向けの住宅の建設ということにも取り組ませて頂きたいと思えます。その他、各分野にわたり公約集に載せてございますが、これらを限りなく実現できると努力を傾注いたす所存でございます。

■次に、平成22年度出納閉鎖に伴います決算状況は、一般会計では歳入総額46億9013万1135円に対し、歳出総額44億9543万8728円となりました。歳入歳出差引額は1億9469万2407円となり、翌年度へ繰り越すべき財源5196万4千円を差し引いた実質収支は1億4272万8407円の黒字となっております。厳しい財政状況の中、一般会計に於きましては、当初、予定を致しておりました財政調整基金からの繰り入れをすることもなく、また、特別会計に於きましても、国民健康保険特別会計を除き、基金会計からの大幅な繰入も無く執行出来たのではないかと考えております。その大きな理由といたしましては、一つには、地方交付税が前年対比で5・3%アップと少し

ではありますが増加したこと、二つ目には、予算の執行段階で経費削減に努め、国・県支出金、地方債等を有効に活用したことによると考えております。

■次に平成23年度の国県道関係の主要な予算は、国道の道路改築事業として、国道438号上分バイパスに2億2千万円、県道の緊急地方道路整備事業として、主要地方道鴨島神山線の神木本名間の現道拡幅、主要地方道石井神山線の本名宮分間の現道拡幅、阿野神領間の落石対策、阿野地区の現道拡幅、主要地方道神山鮎喰線の南馬喰草の現道拡幅に合わせ2億5500万円の予算が配分をされております。また、県単道路局部改良事業と致しまして、5箇所3千万円の予算が配分をされております。道路関係予算としては、合計5億500万円が予定されておるところでございます。

■また、河川砂防関係の主要な予算は、河川特殊改良事業として、五反地の鮎喰川の護岸工に500万円、国補の通常砂防事業として、下分南山東谷に1500万円、地滑り対策事業として、上分金泉地区に1千万円の予算配分が成されております。

■次に、東日本大震災発生後の県及

び県下市町村で参加いたしております、宮城県北部沿岸市町支援本部への職員派遣でございますけれども、現在までに、本町から2名、職員組合から1名、合計3名派遣を致しております。

■次に、国民健康保険条例の一部改正については、平成23年度国保会計当初予算につきまして、国保財政調整基金の1億4千万円余りの全てを取り崩し、さらに、一般会計からの法定外繰入金4千万円余りを繰り入れ、収支の均衡を図っているところでございます。しかし、国保財政が大変厳しい状況であることから、今回保険税を給付に適した税率等に改め、国保運営の安定を図るものがございます。

■次に、要援護者台帳及び要援護者マップの整備事業は、災害が発生した時などに備え、あらかじめ要援護者一人ひとりに、誰が支援して、何処の避難所等に避難をさせるかを定めておく必要があります。このため、本町では65歳以上の高齢者世帯、在宅の要介護者認定者、あるいは障害者につきましては、民生委員さん等の協力を得ながら災害時要援護者台帳及び要援護者マップを本年度中に整備いたしたく、本補正予算

に計上を致しております。

■次に、鳥獣被害対策については、本年度から、町単独の補助金交付要綱を改正し、補助要件を緩和し、受益戸数を2戸から1戸に、また、事業費を5万円以上から3万円以上とさせて頂きました。その結果、電気柵等の事業実施希望者が増え当初予算枠を既に超過を致しているため、今回、250万円を追加計上させて頂いております。また、佐那河内村と共同で鳥獣被害対策を実施しておりますが、本年度総額1304万5千円の国補事業を活用し、研修会の開催、防止柵の資材費などの補助を行い鳥獣被害対策に取り組む予定でございます。

■次に、雨水被害対策ですが、本年度は国補事業の人工林整備伐事業を利用し、林業公社に委託し、被害地区の倒木の整備、間伐、搬出等を行い、植栽の準備を実施いたしたく838万円を計上いたしております。また、今後も計画的に広葉樹を植栽し、町有林の再生を図って参りたいと考えております。また、県の公有林化の推進制度ということにも移行をして、町もこれに手を挙げて参りたいとも考えております。

■次に目黒のさんま祭りでございます

すが、東日本大震災で、漁港も被災を致しましたため、開催が危ぶまれておりましたが、毎年さんまを提供して下さっております宮古市の山本市長から、開催の希望がございました。これに目黒の商店街、それと本町も呼応し、是非とも協力いたし、9月4日に開催されることが、決定を致したところでございます。本町としても、出来る限りのご協力を申し上げ、目黒のさんま祭りを盛り上げ、宮古市をご支援して参りたいと考えております。等々の表明と報告があった。

諸報告

○平成23年3、4、5月分の例月出納検査報告

監査委員から一般会計及び特別会計に属する出納状況を出納機関の諸帳簿、指定金融機関提出の収支日計表、証憑書類と照合した結果、過誤のないことを確認したことの報告があった。

○繰越明許費の繰越計算書報告

自立支援にかかる住民意識調査事業、老人ホーム非常用ディーゼル発電機設置事業、県営林道立木等補償

事業、地域生活路線整備事業、社会資本整備総合交付金事業、神山消防署建設事業、小学校耐震改修事業、中学校耐震改修事業、中央簡易水道配水管布設替事業について、平成22年度に支出が終了しない見込みの経費で、あらかじめ議決を経て繰越された経費の報告があった。

○株式会社神山温泉の経営状況報告

平成22年度の「いやしの湯」入場者数17万4252人、ホテル四季の里宿泊者数9248人、総売上高約4億7700万円(内 道の駅1億3500万円)、経常利益が755万5030円で、純利益が562万9737円の黒字であったなどの報告があった。

○議員派遣報告

勝名地区町村議会議長会正・副議長視察研修の一件について報告があった。

条例制定・改廃等

○神山町国民健康保険条例の一部改正

国において健康保険法施行令等の一部を改正する政令が交付施行されたことに伴い条例を専決処分に付したものです。

出産、育児等に係る経済的負担の軽減を図るため、平成21年10月から平成23年3月までの間、暫定的に引き上げられた出産育児一時金の支給額について、平成23年4月から恒久化するのとされたことに伴い、支給する所要の措置が講ぜられたものです。

○神山町国民健康保険条例の一部改正

医療分、後期高齢者支援分及び介護保険分の上限額の引き上げを行うもので、国において、高額所得者層からの保険税収入を増やし、中間所得者層の負担軽減を計る目的で法律改正されております。また、本会計の当初予算で、財政調整基金1億4973万8千円すべて取り崩し、更に法定外繰入金4442万4千円繰り入れたことに伴い、今後インフルエンザ等の発症者の急増、更には高度医療化に伴う高額医療費等に備え、税率等の一部を引き上げるものです。

○神山町国民健康保険条例の一部改正

医療分の基礎限度額を「50万円」から「51万円」に、後期高齢者支援分の限度額を「13万円」から「14万円」に、介護保険分の限度額を「10万円」から「12万円」にそれぞれ引き上げ

るものです。

被保険者均等割額「1万7千円」を「1万8千円」に、世帯別平等割額「1万9千円」を「2万円」に、後期高齢者支援金均等割額「4千円」を「5500円」にそれぞれ引き上げ、普通徴収の納期(8期分割で各期25日納期)を12月分の納期を除き、全て月末納期に改正を行うものです。(賛成多数可決)

○神山町後期高齢者医療に関する条例の一部改正

町税に関する納期を全て月末に統一化することにより、納税義務者更には取扱金融機関とのトラブル発生等の解消を図るもので、12月分の納期を除き、全て月末納期とするものです。(賛成多数可決)

人事案件

○人権擁護委員候補者の推薦(同意)

神山町阿野字広野108番地
西崎 久美子 氏
神山町神領字西大久保162番地
上地 文子 氏

○名西消防組合議会議員の選挙

欠員補充のため選挙を行い「森本吉治議員」が当選しました。

○農業委員の推薦

議会推薦の農業委員の任期が7月19日満了となるため、次の者を推薦しました。

神山町阿野字神木246番地

森本 孝夫 氏

神山町鬼籠野字阿保坂280番地

坂野 明義 氏

神山町神領字西小野29番地

岩丸 幸弘 氏

神山町下分字栗生野167番地

栗飯原 充志 氏

議員発議案

○東日本大震災の被災者への支援と原子エネルギーから自然エネルギーへの転換を求める意見書の提出

地震対策、津波対策などの安全対策について、改めて点検を行うとともに、抜本的な対策を講じ、国民の安全・安心の確保に努めることなどについての意見書を提出するものです。(賛成多数可決)

○委員会の閉会中の継続調査

各常任委員会、特別委員会における案件について、閉会中の引き続き調査を行うと決定した。

諸願・陳情等

○陳情書

「東日本大震災の被災者への支援と原子エネルギーから自然エネルギーへの転換を求める意見書」採択を求める陳情

提出者 2011年国民平和行進

徳島県コース実行委員会

実行委員長 山本正美

この件については、採択となりました。

○陳情書

神山町立中学校の教科書採択についての陳情

提出者 徳島県の教育を考える会

代表 米田 末子

この件については、資料写し配付

6月定例会

一般質問



西崎 哲夫 議員

問 ① 神山町地域防災計画の見直しについて。

計画に目を通して感じたことですが、神山町の地域性、特殊性が感じられない。内容が一律化で、官の発想による内容だと感じた。ハード面が大半で、ソフト面の明記が少ない。地域の課題とか、集落の課題等の明記がない。

(イ) 神山町地域防災会議条例の見直しの必要があるのではないかと。全ての委員が官の代表であるが、地域性を持たせるためにも、例えば民生委員代表、女性代表、社会福祉協議会代表、NPO団体代表とか、民が計画に連動するためには必要な見直しではないか。

答 町長

本町にあっても、東海、東南海、南海、地震の発生確率が年々高くなってきている昨今、見直しが必要になってこようかと思う。

自主防災組織の拡充、避難所の耐震化と確保、危険ヶ所の周知の徹底、四国にも伊方原発がある、放射能の課題も重要かと思う。神山町地域防災会議の民の参加による見直しについては、災害対策基本法が昭和36年にできており70年近くを経過し

問 ② 手法を変えた、地域別懇談会について。

町政は町民が抱える課題や意見をよく聞いて、出来るだけ町政に反映させていくことが原点ではないかと思うが、町民と行政との対話は単なる恒例行事ではなく大切な原点ではないか。過去の地域別懇談会は大きな課題があったが故に、現行の車座談会に移行した経緯はよく理解出来る。しかし車座談会とは住民がテーマを決め、10人以上の出席をクリアしたら出前するということが、行政が町民の上に立った発想ではないか。車座談会を廃し、新たな手法による地域別懇談会を実施しては。

(一) 開催区域をもう少し細分化して会場を増やしては。

(二) 年間を通して、無理のない開催にしたら。

(三) 町側の出席者も支障の無い程度に少なくしては。

(四) 発言の少ない会場等では、町側がテーマを準備して供する工夫と
かしては。

(五) 町内の集落地域の地域力は各々で同じではない。地域力の弱い所が切り捨てにならない配慮がいるのでは。

多様な手法が考えられると思うが検討しては。

答

町長

先の地域別懇談から現行の車座座談会への移行は課題があつての選択であつた。もう一度原点に戻つて、町行政が上位という考えではない、同等の関係で対応すべきでないかという質問の主旨かと思ひます。

まさに車座座談会は住民と行政が連携を取りということは謳つておるんですが、地域住民10名以上で課題等テーマを持ち得なかつた場合、又地域力が弱い所については、開催要請が確かに薄くならざるを得ないと思つてゐる。こうした地域とも懇談

し意見交換する手法もあつてよいのかなと思つ。その一方テーマを行政の側から供して、各々意見を交わし、それを行政に反映させていく手法も大事かと思つ。町政の課題である、水の問題、鳥獣害問題、自主防災組織の立ち上げ等について、町側から持ちかけて開催することも非常に大事と思つてゐる。現行の車座座談会の手法だけでは高齢化の実情、地域力の限界の中では成果を上げるのは難しいのではないかと思つ。多様な角度から多様な手法で地域住民の声を聞き、又行政の抱える問題も逆に地域の方々に聞いてもらうことが、是非必要なのかなと思つてゐる。



森本 吉治 議員

問

① 町内の街路灯の維持管理について

町内には夜間住民の安全安心のため防犯灯が設置されているが、その維持管理はどうなつてゐるか。特に県道沿いの町筋には過去に商工会会員のご寄付により街路灯が170基

程設置されておりますが、広野地区では部落負担で電気代を支払つており、年間1部落あたり2、3万円になつております。

他地区では街路灯を設置した、商店主が永年に亘り電気代を支払つてくれております。この電気代は地域住民だけでなく不特定多数の方々の夜間の安全安心を守つており地域住民や個人が支払つことなく、町が電気代を支払つてもいいのではないか。

答

大野総務課長

町内には防犯灯が490基ありこれらについては町が電気代を支払つており年間199万円ほどである。

佐那河内村では198基約120万円、勝浦町では593基250万円ほど支払つてゐる。



答

町長

商工会設置の街路灯は個人所有になつており、それを町費負担で支払つことは難しい。又助成ということも今のところ即答しかねる。

問

② 職員の採用条件について

昨年より職員に新規採用の年齢制限が上限が36歳までに緩和されています。そこで土地家屋調査士、土木技能士、測量士などの有資格者を採用してコンサルタントなどへの業務委託費を削減できないか。

答

大野総務課長

現在役場の採用試験は一般行政職、最近では保育士、保健師などの資格を有するもの。少し前は土木技術の資格を有するものを採用してきた。現在はさきほど言われたような有資格者は採用していない。

答

町長

この問題はコストで図るのは如何かと思つが、この有資格者に限つて採用はむづかしい。ただ一般職の中での採用時たまたま様々な資格を有する者がおれば当然採用時の判断ということでも有利になるかもわかりません。

行政視察など報告

勝名地区議長会研修に 参加して

5月11日から13日の3日間、勝名地区議会議長、副議長の研修会が北海道知内町、余市町において実施さ



知内町



余市町

れ、本町議会からも議長、副議長が参加した。

1日目

5月11日(水)

上磯郡知内町において議会活性化と農業振興方策についての研修が行われた。知内町は人口5200人で、北島三郎さんの出身地で有名で

2日目

5月12日(木)

あるが、ニラの生産が日本一で、ニラを中心に、ほうれん草、トマトなどが生産され、徹底した共選・共販体制を確立し、野菜出荷貯蔵施設の導入を行い、品質向上や省力化と生産拡大を図り足腰の強い農業基盤体制の確立を行っている。また、議会の活性化については、議会基本条例を制定し、休日議会や夜間議会を実施すると共に、議会主催の住民懇談会や議会報告会を実施するなど、住民参加の試みを通じて、開かれた議会づくりを目指し、改革を行っている町である。(山本 充良議長)

昨日と変わり今日は5時間余りの長時間のバス移動となった。函館市から余市町までである。余市町の人口は21000人20年前に比べると4000人減少していた。気候は北海道内でも温暖で、りんご、なし、ぶどう、さくらんぼなどを主体とした農業地帯で、札幌、小樽への農水産物供給地となっている。ここでの視察目的は観光による町おこしである。余市は宇宙飛行士毛利衛氏の出身地であることから余市宇宙記念

館をオープンさせた。併設して道の駅スペース・アップル余市があり駐車場を共有している。宇宙記念館は宇宙の神秘や宇宙開発の最新情報が学べる施設となっている。この施設もオープンの入場者数を過大見込みしていた為赤字が続き数年後に休館を余儀なくされ、現在第3セクターとして再営業しているが、こうした施設は集客方法をよほどうまくやらないと後々の維持管理などが重荷になるものであり箱物の観光施設の課題であると感じた。近くにはニッカウイスキー北海道工場があり昔ながらの工場が今も稼働しており工場内は観光客にも解放されておりウイスキーの香りで満たされていた。余談だが社名のニッカの語源は旧社日本果汁株式会社の頭文字をとったところである。また町内には一日500円で楽しめるパークゴルフ場、果樹の生産地であることから6月から10月までフルーツ狩りを楽しめ札幌、小樽からの観光客で賑わうそうである。観光は過去の自然遺産、文化遺産などの目玉商品があるほうが長く観光客を呼び込めるものであり、箱物観光施設の集客の難しさを痛感した。(森本 吉治副議長)

町内視察

6月17日、6月定例会において現在進められている「広野小学校」の耐震工事、すだち・うめ選果機導入予定の「JA名西郡鬼籠野選果場」、「神山中学校」の耐震工事、「町道谷線」の改良工事の現地調査を実施した。

当口は、町担当者、設計業者、工事関係者の説明を受けくまなく調査することができた。

各工事の本年度における事業費、完了期は、次のとおりである。



広野小学校

- 事業費 138,900,000円
平成22年度 37,610,000円、平成23年度 71,470,000円
- 完成予定 平成23年10月末



JA 名西郡鬼籠野選果場



町道谷線

- 事業費 180,000,000円
平成23年度 20,000,000円
- 完了予定 平成26年度末



神山中学校

- 事業費 109,080,000円
平成22年度 37,610,000円、平成23年度 71,470,000円
- 完成予定 平成23年10月末

神山町戦没者追悼式に出席



6月8日
(水) 町民体育館に於いて神山町戦没者追悼式が挙行され、議員も出席した。先の大戦終戦から66年

目の式典であり、あらためて戦没者への哀悼の意を強くした。神山町議会を代表し、山本充良議長が追悼の辞を述べた。今回はじめて、町内小中学校の生徒代表も出席された。町内中学校は、修学旅行は沖繩で、日本で唯一、上陸地上戦受難の地で、戦争の悲惨と平和の尊さについて学んでいます。今回初の式典出席が戦争と平和を考える何かになればと思います。今、NHKの朝ドラマ「おひさま」が放映されていますが、戦中戦後の時代背景ドラマであり、追悼式典が、私達一人一人が戦争と平和について、考える機になればと感じました。

議会を傍聴しませんか!

皆さんが選んだ代表が議場でどんな発言をしているのか自分の目と耳でお確かめ下さい。どうぞお気軽にお越し下さい。定例会は年4回(3月・6月・9月・12月)に開かれます。日程・手続き等は議会事務局へお問い合わせ下さい。

神山町議会事務局
TEL 676-11511

「TP2002」
次の定例会は

9月中旬です。

議会だよりの投稿を募集しています。

身近な「出来事」や「情報」など、お気軽にお寄せ下さい。投稿は自由です。提出された投稿は、本委員会で協議検討し、承認を得たものとなります。議会だより発刊月は2月・5月・8月・11月の年4回を予定しています。

提出・問い合わせ先
神山町役場内 議会事務局
TEL 676-11511
「TP2002」

検証

高齢者等タクシー
運賃助成事業

高齢者等タクシー運賃助成事業が本年2月から実施されて、半年を迎えようとしている。町がこの事業を実施するにいたるまで、議会では、高齢者の医療機関への通院や生活用品の購入等高齢者等の交通課題について、対策を望んだ経緯がある。今回、町担当課の健康福祉課から資料提供を受け、事業の実施状況等や課題について検証してみた。

まず、6月末の事業利用者登録申請者数は、503名で対象者の約20%の方が申請している。事業開始の2月末の申請率は約15%であることから、徐々に増加している。地区別申請率では、上分、広野、下分が高く、特に上分・広野地区では、事業の浸透が図られている。二丁の差はあるが、申請の少ない地域も見受けられる。

5ヶ月間の利用件数は、1611件で1月当たり320件あまり。地区別累計では、申請件数で上分地区516件、広野地区493件と突出している。利用目的別には、医療機関の受診が55%、公共機関3%で全体の60%近

くを占める。医療機関の利用は、鬼籠野、神領、広野が高い率を占める。やはり、町内外を問わず医療機関受診は、高齢者にとって重要な目的となっている。その他については、詳細は不明であるが、買い物等の利用も多いという。

利用料金別の利用件数は、料金2000円までが50%を占め、以下3001円以上が29%、3000円までが21%となっている。近距離型と遠距離型のふたつの形態が見受けられる。近距離型は、公共交通機関がないへき地から、町内の医療機関通院や商店利用で、比較的に上分・下分・神領地区の利用者が多い。遠距離型は、町の医療機関への通院等である。上限2000円の助成であることから、遠距離になる町内西部地区より、東部地区での利用が多い。



過疎・高齢化が進行する山間部集落

事業開始から5ヶ月であることから、まだ申請件数が少ない地区も見受けられることや統計的な分析には今ひとつのところがあがるが、問題を把握して今後の利用の増進とよりよいサービスの提供を切に望むものである。

神山町高齢者等タクシー助成事業（H23.2～6月までの累計）

1 利用者登録申請状況

区分 地区名	70歳以上の 高齢者	障害者手帳 保持者等	計	70歳以上高齢者 数(4/1現在)	70歳以上高齢者 の申請割合
上分	118	1	119	316	37%
下分	62		62	422	21%
左右内	28	1	29	611	6%
神領	36	1	37	257	17%
鬼籠野	43	3	46	510	32%
広野	162		162	282	17%
阿川	48		48	2,398	21%
計	497	6	503		

*区分が複数該当の場合は、区分70歳以上に計上。

2 地区別利用状況（件数及び目的）

	利用目的					計	
	医療機関		公共機関		その他		
上分	256	50%	2	0%	258	50%	516
下分	63	57%	3	3%	44	40%	110
左右内	5	10%	6	12%	40	78%	51
神領	55	68%	1	1%	25	31%	81
鬼籠野	121	70%	8	5%	44	25%	173
広野	291	59%	23	5%	179	36%	493
阿川	101	54%	11	6%	75	40%	187
計	892	55%	54	3%	665	41%	1,611

3 利用料金及び助成額

	利用件数	利用総料金	助成総額	個人負担金	備考
料金2,000円まで	808	50.2%	1,101,340	551,280	550,060 助成額は料金の半額
3,000円まで	341	21.2%	867,500	526,500	341,330 助成額は料金より1,000円を引いた額
3,001円以上	462	28.7%	2,182,670	924,000	1,258,670 一律2,000円
計	1,611		4,151,510	2,001,780	2,150,060

利用者の声

徳島市内の病院に週3回通院。行きは町外に住む息子にさせてもらう。帰りは治療の関係で徳バスと町営バスとの連絡がない時間帯になるので、徳バスからタクシーへの乗り継ぎが多い。助成事業でタクシーを利用でき、子どもに余分な負担をかけなくて良いのでうれしい。できれば助成の回数を増やして欲しい。（上分、男性、79歳）

利用者の声

自宅からバス停まで遠く、月一回町内医院に通院。息子の時間の関係で、最近は、ほとんど往復でタクシーを利用している。へき地に住む高齢者にとって、ありがたい事業。もっとPRして、高齢者自身が過疎地でも快適な生活が送れるよう利用し、事業を長く続けてもらいたい。（上分、女性、86歳）

地域活性化行事で地域間の連携

今年も下分七夕飾り実行委員会による、恒例の下分七夕飾りが実施された。毎年のことだが下分地区総出で、高所作業車やユニック付車輛等を駆使した大掛かりな七夕飾りである。この下分地区と時を同じくして、上分、左右内、神領、鬼籠野、広野、各地区でも、主要道路沿いで七夕飾りが取り付けられた。各地区各々に深刻な地域課題を抱える中での対応には大変なご苦労があると思われる。下分地区の大掛かりな七夕飾りも各地区のこうした連携により、より大きな効果が発揮されている。東西から一歩町内に入ると、七夕飾りがメーンの下分七夕飾りへと導いてくれる。見事な演出である。加えて今年は、阿川28歩の会と上分から江田の中川善文氏の協賛が一段と行事を盛り立てている。阿川28歩の会が得意とする案山子は、やさしく、なつかしい温かい風情を醸し出して呉れている。中川善文氏のビールアルミ缶を工夫した風車を多数取りつけていただいている。

町内各地区の連携によって、下分地区七夕飾りは、回を追う毎に内容を深めている。年間を通して展開されている町内各地区の活性化行事も地区間の連携により、思いがけない付加価値が期待出来るかも知れません。



上分、中川善文氏作品 アルミ缶の風車



阿川28歩の会協賛作品

Pick Up!

「神山町農作物鳥獣害防止対策事業費補助金交付要綱」が緩和改正されました。

近年鳥獣害による農作物の被害が深刻になっているため、今まで運用していた「2戸以上の農家で共同利用10a以上の面積、事業費5万円以上」等々の交付要綱が、地域の現状に応じた内容に緩和改正されました。

改正では、猿、イノシシ、に加えて鹿の被害も対象になります。2戸以上ではなく補助対象外で個人で設置された施設以上の共同利用が、1戸以上の個人も対象になりました。事業費5万円以上が、3万円以上、延長50m以上、補助金で25万円以内となりました。本町に於ける鳥獣害の実状に対応しやすい要綱に緩和改正されました。平成23年4月1日から、実施されています。その他詳しい事業の内容については、産業建設課（農業係）676-1118番（1P、2008番）へお問い合わせください。



表紙写真解説

上分花の隠里

町道、川又南―西蔭線の起点より1km杉木立の坂道を車で走ると、突如として目を見張るばかりのつつじの花園が展開する。

「上分花の隠里」である。

平成14年頃までは上分地区の一部の住民にしか知られていなかったが、平成15年はじめて上分花の隠里まつりが開催されてから次第に一般に知られるようになる。昭和63年にここから川又に移転した、小西弘氏の旧屋敷である。小西弘氏（85才）妻信子さん（84才）が60数年前から丹精込めて作り上げた花の里である。隣接しておんつつじと著莪（しゃが）の広い自生地があり、つつじ（霧島系）と開花が同時期で見応えがある。近年町道の改良も進んではいるが、来訪者の急増に課題も山積している。丁度、岳人の森のしゃくなげ祭りとも時期を同じくし、神山温泉道の駅西部への集



小西弘さん 信子さん ご夫妻

客にも大きく貢献している。植物を核とした観光地は一般に知られるようになるまで、気の遠くなるような長い年月とそれに係る人達の、一途なまでの丹精があってこそである。それだけに行政の積極的な息の長い支援が必要でないかと思われる。

撮影 松浦一郎氏
神領字北

編集後記

東日本大震災から早くも5カ月がすぎますが、原発事故も重なり復旧、復興は、いっこうに進まない報道をよく耳にします。国の政治の在り方に国民が失望し、信頼のできない状況になっ

ているように思われます。たくさんの被災者の方が今も不自由な避難生活をされています。このような事態に、全国の人

が心配されている事とします。もしあの震災が南海地震で今私たちがその被害を受けているとしたら……。他人事とは思わず、行政、町民が一体となって明日にも起こるかもしれない震災に心の準備と、防災についての意識を高めたものです。

議会だよりも今号で10回目の発行となりました。投稿していただいた方々に感謝申し上げますと共に本議会だよりに多くのご意見をお寄せ下さいますようお願いしています。

（相原 浩志）



学校通信

ジンリョウユリとカノコユリの 交配種が6月中旬に開花!!

城西高等学校神山分校 教諭 安田 博武氏



交配種

カノコユリの栽培しやすさに、ジンリョウユリの香りが入れば楽しくなるのではと思い、5年前に交配してみました。

5月下旬にジンリョウユリの花粉を採集し、冷蔵庫で保存しました。それを7月に雄しべを除いた開花直前のカノコユリの雌しべに受粉。やがて子房が肥大して11月に種子が成熟します。

その種子をバイテク操作で寒天無菌培地に播種します。発芽したものを翌年の1月に新しい無菌培地に移植し、12月にビン出ししました。約180球ぐらいいきました。そのうちの150球を農村公園に定植し、翌年の開花を楽しみに

していました。しかし、環境が不十分だったのか、ほとんどが消えてしまいました。

肥大の悪い約30球を温室で栽培していました。そのうちの2株が開花しました。開花時期はジンリョウユリよりも半月遅く、カノコユリより1ヶ月以上早く、花型は両者の中間でした。なによりも、ジンリョウユリの香りが入り、その香り具合はジンリョウユリに勝るとも劣らぬもので、予想外の快挙でした。

ジンリョウユリを栽培したいとの要望が寄せられますが、徳島県の希少植物であり、栽培も極めて難しく一般に楽しむことが出来ませんでした。しかし、本交配種なら多くの人が栽培でき、『ジンリョウユリの香り』を楽しんでいただけます。

今年は再度交配し、再来年の開花を目指します。

無菌播種の発芽率や球根の肥大はジンリョウユリより優れています。

花弁の反りは、両者の中間。ジンリョウユリの香りとカノコユリの「鹿の子」模様が入りました。



ジンリョウユリ



カノコユリ

カノコユリ的事 神領字川北 片山 泰雄氏

第二次世界大戦も終わり、戦後の混乱期が過ぎ、食料事情が改善されてきました。人々の心は平和を受け入れるようになった結果、花を愛する心も芽生えてきました。戦勝国のアメリカやオランダは特に早かったようで、カノコユリをコサージュ（女性の胸元を飾る生花）として利用するために、神山町では球根の輸出用生産が昭和30年代に10年間ほど盛んな時代がありました。